



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：令和3年9月11日（土）13時00分～17時30分

場所：オンライン開催（アドレスは別途連絡します）

開催世話人：静岡県立大学薬学部 医薬品製造化学教室 吉村 文彦

プログラム

13:00 開会の言葉 静岡県立大学薬学部 吉村 文彦

13:05～14:25 原薬のプロセス研究

座長：横島 聡

大日本住友製薬 技術研究本部プロセス研究所

プロセス研究第1Gグループマネージャー 橋本 和樹 先生

探索研究により見いだされた種（原薬）を医薬品とするためには、原薬製造における“安全・安定・安心”が求められる。つまり、原薬は事故のないよう“安全”に、“安定”供給が可能な堅牢的な製法で、なにより患者様に“安心”してもらえる高純度な品質になるよう製造される必要がある。プロセス研究とは“3安”な原薬の製造方法を確立することである。本講演ではプロセス研究の具体的な事例を紹介する。

14:25～15:45 核酸医薬品開発における DDS 技術

座長：永澤秀子

協和キリン株式会社 研究開発本部 研究ユニット

研究マネジメントオフィス マネージャー 上原 啓嗣 先生

核酸医薬は、従来の低分子医薬や抗体医薬等の作用機序とは異なり、細胞内の遺伝子に直接作用することで治療効果を発揮する医薬品である。したがって、そのユニークな特徴から、遺伝性疾患や癌等の難治性疾患の治療薬として開発が進んでいる。核酸医薬の実用化において、生体内でのデリバリー技術は大きな課題であり、様々なデリバリー技術が検討されている。本講義では、核酸医薬の現状ならびに我々が見出した核酸デリバリー技術の実例を紹介する。また、これらの技術に関して創薬現場における活用例を概説する。

16:00～17:20 モダリティーと新規創薬技術

座長：中川 秀彦

田辺三菱製薬株式会社 創薬本部モダリティー研究所

主任研究員 佐藤 透 先生

近年、創薬の手法は大きく変化しています。低分子化合物が主流であった従来型の創薬から、抗体・中分子・核酸・遺伝子治療など、低分子以外のモダリティー（分子様式・治療手段）による創薬が活発化しています。本講演では、低分子創薬アプローチから最新のトレンド（新規創薬技術・モダリティー）まで、弊社の取り組み事例を交えながら紹介します。

17:20 閉会の言葉

岐阜薬科大学 永澤 秀子

ミキサーや懇親会は行いません。

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

永澤秀子（地域世話人代表、岐阜薬科大学）、菅 敏幸（静岡県立大）、中川秀彦（名古屋市立大学）、森 裕二（名城大学）、安池修之（愛知学院大学）、林 一彦（金城学院大学）、岩島 誠（鈴鹿医療科学大学）、柴田哲男（名古屋工業大学）、横島 聡（名古屋大学）、池田 将（岐阜大学）